

# 愛する街 磨き続け30年



昼休憩を利用して清掃する山内さん(右から2人目)ら(大阪市中央区で)

## 心齋橋周辺 企業・事業所NPO

心齋橋周辺の企業や事業所などをつくるNPO法人「御堂筋・長堀21世紀の会」(成松孝理理事長)による街の清掃活動が今月、丸30年を迎えた。折々に参加者が入れ替わりながらも、「自分たちの街は自分たちで守ろう」を合言葉に、就業前後や昼休みの数十分間を積み重ねてきたという。(南部さやか)

「暑いのに、お疲れさん!」「今日も日差しに負けんと、頑張らね」  
15日の正午過ぎ。オフィスビルや地下街から姿を現した半袖姿の男性社員や女子社員ら計60人が、そんな言葉を交わし、お昼どきの長堀通を歩き始めた。  
手には半透明のビニール袋や金属バサミ。道路脇に転がったペットボトルや植え込みにねじ込まれた空き缶、散らばった吸い殻をつまみでは、袋に入れていく。30〜40分間、約3キロの範囲で作業を進めると、袋はほとんどいっぱいになった。  
同NPOは1982年、大阪市中央区の長堀・心齋橋地区の活性化を目的に若手経営者らで発足。市にまちづくりについて提言をする一方、清掃は「求めるばかりでなく、自分たちも街のために動こう」と、30年前の84年7月7日、80社でスタートさせた。

## 昼休みなどにコツコツと

活動日程の見直しなどで、清掃が3か月中断したことがあった。すると、たちまち御堂筋に弁当の空箱が目立つようになった。  
「街は人が手をかけないと、すさんでいく」  
そのとき、メンバーは肝に銘じ、各社の参加状況を公表したり、皆勤企業にギフト券を贈ったり、活動の励みになる試みを工夫するようになったという。  
現在は102社が活動。第1木曜日の午前9時半と、第3火曜日の午後0時半から、業務に大きな支障の出ない社が、若手やベテランにかかわらず参加する。  
中心となって清掃してきた「山一化工」常務取締役で同NPO理事の山内一郎さんは「30年も続けてこられたのは、各社の理解があったから。『掃除をする心のある会社は倒産しない』と呼びかけてきたかがある」と、街を愛する自分の心の両方を磨くつもりで活動したい」と話している。

同スタジアムは約500種のジャイアンツグッズをそろえ、西日本で

中学生以下、抽選会おと

墨の濃淡を生かして風景、人物などを描いた作品

を紹介する「第53回青玲社現代南画展」(読売新聞社)

世界報道写真展 大賞など50点

来月12日から

世界の報道カメラマンが撮影した写真を展示する「世界報道写真展2014」(世界報道写真財団、阪神電鉄など主催)が8月12〜21日、大阪市北区のハービスホールで開かれる。

同財団が毎年実施している「世界報道写真コンテスト」で、132か国・地域から応募のあった約9万8000点のうち、入賞作品約50点を展示。アフリカ東部のジブチ共和国の海岸で、家族と連絡を取ろうと携帯電話を夜空に向けて、電波をとらえようとする出稼ぎ労働者たちを撮影した米国の写真家ジョン・スタンマイヤー氏の大賞作品などを紹介する。

開場は午前11時〜午後8時(入館は午後7時半まで)。入場料は一般700円、中学生〜大学生500円、小学生以下無料。前売り券は各200円引き。問い合わせはハービスホール(06・6343・7800)へ。

龍風会50周年書画展 19・20日、岸和田で

書家の樽谷龍風さん一門でつくる龍風会が、同会の創立50周年を記念して企画した選

抜書画展が、岸和田市岸城町の市立自泉会館ギャラリーで19、20両日に開かれる。入場

無料。樽谷龍風さん藤原英龍さんの